

# みき通信

日本共産党 町議会議員  
くぼたみき 活動報告

第33号 2013年8月25日

発行 **がんばれくぼたみきの会**

連絡先 875-7126 (阿部)

## 世界から孤立する日本、安倍政権

広島・長崎を訪問したオリバー・ストーン米映画監督は、8日12日記者会見し、「歴史を知らない人が多すぎる」と日米両国での歴史教育の重要性を訴えました。彼は、米国では一般的な原爆投下を正当化する議論に異を唱える著書を出版しており、共同執筆者の歴史学者ピーター・カズニック氏も出席し、被爆国日本が「平和な世界のために立ち上がり、核廃絶のリーダーになるべきだ」とも訴えています。これに反して、安倍政権は核廃絶と矛盾する「アメリカの核の傘」に頼り、とうとう集団的自衛権容認派の人物を、内閣法制局長官に起用しました。集団的自衛権とは、密接な関係にある国に対する武力攻撃を、日本が攻撃されていなくとも実力で阻止する権利の事です。自衛隊を合法化するために、憲法が認めているのは、個別的自衛権だけだとし、国民の反戦感情に配慮して「集団的自衛権は認められない」としてきたこれまでの解釈を改めようというわけです。96条という改憲のハードルを下げて9条改憲を狙う一方で、憲法解釈でも都合のいいようにして、あらゆる手を尽くしてアメリカとともに戦争する国にしようとして進んでいるのが安倍政権の実態です。侵略戦争を美化する人物が首相や政党の代表を務め、副総理がナチズムを肯定する・・・しかも、世界から批判されても、撤回だけで謝罪も辞任もしないという、世界の流れから逆行した歴史認識と人権感覚です。今も、私たちの生命と暮らしをおびやかしている原発依存の政策を改めない安倍政権の「日本を守るため」というゴマカシの神話に、くれぐれもだまされないように用心を！

## いまだ復興への手も尽くせない浪江町へ

町議会議員 くぼたみき

8月初旬、11人の支援隊で福島県へ。何回も支援に行ったが、福島は初めて。高速で5時間ほどだが、放射線の関係で迂回するため7時間を予定。「いまでも？」と思いました。そして、福島県南相馬市の共産党ボランティアセンターへ。

支援要請は「とにかく現地を見てほしい。福島を忘れないでほしい」という。センターには、各地からの支援物資、玄米、ペットボトルの水が積まれている。

そして、昼間だけ帰宅をゆるされた浪江町へ。町には人影はありません。草は子供の背丈ほどにのび、カーテンが閉まったままの家。真夏に風も入れられない。大きな崩壊はみられないがところどころ壁が崩れ、塀が倒れている。

私は仮設住宅へ聞き取り調査訪問、直前に玄米を精米しお届けする。

浪江の方が住む仮設住宅では「避難後、一度も自宅には戻ってない。今の様子はどんなですか？」「ねずみの大発生で自治体をお願いしたがダメ。自分達で駆除したが、今になってネズミ取りが配布された。何事も対応が遅い」。

津波被害者が「黒い煙のように波が来た。92才の義母の手を引き、夫がお尻を押し山に向かった。ギリギリのところで助かった。自宅は半壊だが浪江だからいつ戻れるかもわからない。もう帰れないねえ」とお嫁さん。線量が高いため更に避難所を転々とされた92歳の義母の戸惑う様子のお話には鳥肌が立ちました。

津波被災地はいまだに車、船が打ち上げられたままで、防波堤が崩壊し元の砂浜に。生活の時間は止まり、自然の力だけの時は流れている。

前の場所に防波堤を作るなら補助金は出るが、新たな場所なら出さないという。おかしい話だと思う。

葉山に帰宅後、震災後初めて浪江の自宅でお盆を迎えると、赤ちゃんを抱いた親子三代の様子がテレビ報道されました。綺麗なご自宅、仏壇に沢山のお供物。これが嘘とは言いませんが、家の基礎しかのこってない所に花が供えられ、半壊の家に家族がお花を持って訪れている様子をいくつも見ました。震災と原発被害の両方を受けた福島。被災から2年半経つ今、復興への手も入れられないこの場所に立ち自分は何をすべきか深く考えました。